



夕の静けさ

あふく *night* の 魂

向はは 望み 舟

世をくま 舟

舟はは 舟の光

舟の舟 舟の舟

舟の舟 舟の舟

舟の舟 舟の舟

舟の舟 舟の舟

舟の舟 舟の舟

舟の舟 舟の舟

舟の舟 舟の舟

舟の舟

舟の舟

舟の舟

少波

自書

平江府下

蕭子

在江

一之



Handwritten text in cursive script, partially visible on the right edge of the page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, occupying the right side of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the center of the page.



Handwritten text in cursive script, located below the main body of text.

Handwritten text in cursive script, located at the bottom of the page.



帰里しんらる執着の
一念空しくおる

後ら娘のこころ

再ハ元の帰りの心

いふは心知れぬ

室にも一紙を懸けし

こと一帰定所

才思の弁は

中々多し

の思ふは

さうして

よの思ひ

世に

思ふ

思ふ

思ふ

思ふ

入

六月十日 帰る

有...
...
...

六月十四日 帰方...

三平 白鳥

概 町内平河町...

筆 敬 文 通 少 権

...



紙
用
日
平
河
用
中
日
十
四
日

筆
敏
之
通
之
權

親
心



六
月
十
四
日
後

其
中
錄
也

時多身予菩薩根以
こ多日芽片の品受尊
以請教一此集人小
ま大愉快行順
今く身人の中為
ま深く中時謝

感謝

病余見一向あり
や一まを帰根
少体さくま友れ片
相あると今日と能肥
必中し物上十揚載
の尤も本日の有毎片一向

の尤も本日の有無は一向
存じやらず 多分お出でな
るを拙者清居ののみ之

花評 切枝用紙

才より計りて年取妙不

ちのまをし 自由の忠い

このまが妙す ことと

又このまのます子

此州の音由おはれ

集りて是路名に備し

言を花名ふまるとは

ぬらつしつるまを

拙評より寄贈し

そのみ始終心す

花評

花評 拙者清居ののみ

一の福余の花は左に

一少福分の落左互敷

下得たしあれし

右時取のつれ

如くはるる

一少

馬巻

龍野

解又辛所五有

連先生

親茂



少石川 田原

又月一。午新

の病すゝの容体

らるるけくはまぐ

つど樹髓と取ら

はらヨロ松の精霊と

ふ入るをボンヤリ

ウツカリ、マダカと天

井と取めるは一向おら

しうらば於此字ヤツと

字と取道しホンと活

を力心すやくのめ候

を力心可く心海

刊来息を吹返す

粒

容子と関女が大分

盛又言ふを電字

燈が消え了借果をす

小公其新電字燈を

責立てての心又大金

盛ありし由左妻新

徳はるる心歌つる

はありしとて飛入心

おまごあまの心あま

電字の燈ふけらそは大相

神妙なる子と云つて尾

電氣の權ふ付りては大相
神妙なる事と云つて是
が罪の重なりぞ

傾城の魂膽 十二カ
新しき事有之れども
お了らせらるるなり
ふばありのろけら
るる困るる其處に
そよちりらふ面白く

○病後ふ付はよの発句お休ませ

ある
あひがみ

小波な

○病後所付はあゝ發句お休ませ

友へ

あつたみ

小波

東京藝大又二所
五月自
齋藤春房 旌祝

通致



六月十九日

大 妻木 命

回復

即書面勸告を讀致

しす。凡そ退日迄地へ来

路の節は即講演せし即

揮毫せし色々と所南側は

コ車やが能ひ新し即速成の

儀に於ては上り下り為所一

般に常々感懐有り居る

深き即座の寺即礼を上

りて即深き下さいます

半切物及び扇の長く紀念

に即し珍題を致し以て存

所、寺、在、相書ふま

健町初と見こ居りますか

明
日あるから岩子野岩倉寺町に

健州初とて居りますか
日ありから岩子野岩谷堂の
宛あふ、女史諸習令へ
で老嫗に鞭うな女史の研究
とやつて目録を多くです。美郷
土史の編纂を心かけて居るの
で御存じます。日中か負舞
とわね即禮志で中上です。
今後も相妻を承り着自願
のぞくお願の上です。

たのむ所かに親一き女と
あひみそこれあわれ後

あけて淋一き

の目せ。 首ぬ

小波先生

玉葉下

小波先生

首叙

小波先生

玉筆

相州大磯町神明森

巖石孝雄様

復



秋田縣六郷町

信守商會

信守

五

一、其とあおあか
ひんとはたさしむしむ
しら回公は拒好
二、精貝しんす
のまむ色さあい
見しうか初法あか
一、柔あまのまは
先、御中まの初法
そと知と素あ
うしひあは
子

まがえり丸

柳尾

少はり丸
18頁

手紙の宛先

柳屋

少海之
氏

在柳屋
氏之
下
月
付
少
海
之
氏

生
成
少
海
之
氏
中

在
多
海
之
氏

少
海
之
氏
中

